年号：1948 年

月日：9 月 11 日～12 日

災害名：低気圧による大雨の概要

六角川位置図

出典：国土地理院

（参考資料：松浦川関連の災害遺構）

【昭和 23 年 9 月水害：架橋記念碑】

・佐賀県唐津市相知町佐里の和田山橋近くに水害復旧記念碑が建っている。

▲架橋記念碑位置（佐賀県唐津市相知町佐里）

▲架橋記念碑

令和 3 年 3 月 24 日撮影

【碑文について】

・佐賀県唐津市相知町佐里、和田山橋近くの松浦川沿いに建つ昭和 23 年 9 月水害の復旧記念碑。碑文は判読困難であるが、佐賀県の災害歴史遺産（佐賀県防災士会発行）にその全文が掲載されているので引用する。

※以下、佐賀県の災害歴史遺産（平成 27 年 12 月発行）P39～40 より

架橋記念碑 碑文

「本橋梁は元三菱相知炭鉱和田山小学校の通学道路として架設昭和八年同炭鉱廃止により当町□道に編入爾来益々主要路線となり全二十年本縣々道に編入改二十一年大改修成りしに二十三年九月十二日未曾有の大洪水のため流出せり本橋梁の難点は地盤軟弱のため従前□□□を又流出し□□に於いても永久施設たる鉄筋コンクリート橋梁として設計成りしも時□も縣下□大災害により容易に着工に至らず地元区民は素より一般交通に大支障を来すため時の□長田代喜一氏の一大奮起となり縣當局を動かし昭和二十四年十一月□て其の例を見ない縣工事の代執行を命ぜられし翌二十五年一月着工せしに流木の埋没並に橋台掘整工事に再度の土砂□壊に遭遇し難工を極め、全一十六年六月

工事竣工落成の式典を挙行せり」（原文はカタカナ表記）

令和 3 年 3 月 24 日撮影

出典：佐賀県の災害歴史遺産（佐賀県防災士会）

【昭和 23 年 9 月水害（低気圧による大雨）の概要について】

・台湾付近にあった低気圧が北東に進んで、9 月 11 日 9 時にはチェジュ島の南に達し、夕方には朝鮮半島南部を通って日本海に進んだ。この低気圧の影響で期間降水量が佐世保（長崎県佐世保市）では 434.4㎜、佐賀で 46.2㎜ となるなど、九州北部で大雨となり、長崎県と佐賀県で特に被害が大きかった。この雨は 9 月 12 日まで続いたとされる。

・本明川水系河川整備計画において、同災害の長崎県下の被害状況として、豪雨（低気圧）により、本明川が氾濫。長崎県下の被害は、死者 39 名、行方不明 79 名、家屋の全･半壊 99 戸、流失 64 戸、家屋の浸水 5973 戸等であった、と記載されている。

（参考資料：徳須恵川関連の災害遺構）

【寛保元年～平成 18 年水害：住吉天神宮】

・佐賀県伊万里市南波多町水留の徳須恵川近くに住吉天神宮が建っている。

・天神宮入口の洪水水深記録碑には寛保元年（1741 年）洪水の水位などが刻まれている。

▲住吉天神宮位置（佐賀県唐津市相知町佐里）

▲住吉天神宮と洪水水深記録碑

令和 3 年 3 月 24 日撮影

【住吉天神宮について】

令和 3 年 3 月 24 日撮影

■住吉天神宮について

「住吉天神社は南波多町水留(つづみ)の波多(はた)川右岸の川辺に鎮座(ちんざ)します。祭神は天御中主命(あめのみなかぬしのみこと)、高皇産霊(たかみむすびの)命、神皇産霊(かみむすびの)命の三柱です。もとは天神社でしたが、大正 3 年(1914)に西にあった住吉神社を合祀(ごうし)しました。本殿と拝殿(はいでん)は木造瓦葺(かわらぶき)で、その時、再建されました。井手野盆地を北流する徳須恵(とくすえ)川は水留の集落を抜けると「中の瀬」の渓谷に入り、川幅が狭くなります。そこに板治(いたじ)川や志気(しげ)川が合流しているため大雨が降ると水かさが増え水留は水害が発生しやすいのです。住吉大神社には、江戸時代からの水害時の水位が拝殿の柱に記録してあります。水位を刻んだ石柱も建立されました。境内(けいだい)には本殿・拝殿のほか慶応(けいおう)3 年(1867)4 月再建のお篭(こもり)堂や川舟の発着所と物々交換の人寄せ場跡があります。」

(伊万里市 HP 「伊万里のお宝 50 選」より引用)

出典：伊万里市 HP 「伊万里のお宝 50 選」

【住吉・天神社拝殿の洪水記録と境内の石碑について】

令和 3 年 3 月 24 日撮影

■住吉・天神社拝殿の洪水記録と境内の石碑について

水留地区は井手野盆地内を流れる徳須恵川の最下流の地で、流水のすべてがここに集まります。これが「水留」の地名の起こりとも言われています。地区のすぐ北側には畑川内方面から流入する板治川があり、さらにその北側には流路の狭い中ノ瀬渓谷があります。大雨の時は水が捌かず水留地区は満水状態となり、古くから幾度となく洪水に見舞われて来ました。

水留地区ではその歴史を後世に伝えるため、この住吉・天神社拝殿の奥柱に水位を記して来ました。古くは江戸時代末期の安政四年(一八五七)のものが読み取れます。洪水の記録としては伊万里市内にはこの種のものは外にはなく、まことに貴重なものです。

将来、社殿の改築などの際、この歴史的記録が消滅することも予想されることから、平成八年(一九九六)「南波多の昔を語る会」によって奥柱の記録を水平移動させ、石碑に刻してこの境内に残すことにしました。

(南波多町まちづくり運営協議会)

【洪水水深記録碑について】

・佐賀県伊万里市南波多町水留の住吉天神宮境内に建つ昭和 23 年 9 月水害の復旧記念碑。

※以下、佐賀県の災害歴史遺産（平成 27 年 12 月発行）P59 より

伊万里市南波多町水留の住吉大神宮の拝殿の柱には江戸時代から平成 18 年に至るまでの洪水の水位が刻まれている。最も古いものは寛保元年(1741 年)の記録がある。
また、最も水位が高いのは、安政 4 年(1857 年)の水害で、鳥居とほぼ同じ高さである。
近年、拝殿の水位記録を写した「洪水水深記録碑」が鳥居の前に建てられている。

令和 3 年 3 月 24 日撮影

出典：佐賀県の災害歴史遺産（佐賀県防災士会）

▼洪水水深記録碑（横）

令和 3 年 3 月 24 日撮影

▼六角川水系既住洪水の概要

洪水発生年月	原因	住ノ江橋地点 流量	被害状況
昭和 28 年 6 月	梅雨前線	約 1,400　m^3/s	死者・行方不明者　:3 名 家屋損壊　:16 戸 浸水家屋　:14,000 戸 ※旧杵島郡の被害
昭和 31 年 8 月	梅雨前線	約 800　m^3/s	家屋損壊　:なし 浸水家屋（床上）　:40 戸 浸水家屋（床下）　:180 戸 ※旧杵島郡の被害
昭和 42 年 7 月	梅雨前線	約 1,300　m^3/s	死者　:2 名 家屋損壊　:109 戸 浸水家屋（床上）　:1,754 戸 浸水家屋（床下）　:7,098 戸
昭和 47 年 7 月	梅雨前線	約 1,000　m^3/s	家屋損壊　:6 戸 浸水家屋（床上）　:220 戸 浸水家屋（床下）　:3,771 戸
昭和 55 年 8 月	台風、前線	約 1,200　m^3/s	浸水家屋（床上）　:1,670 戸 浸水家屋（床下）　:3,165 戸
平成 2 年 7 月	梅雨前線	約 2,200　m^3/s	死者・行方不明者　:1 名 家屋損壊　:47 戸 浸水家屋（床上）　:3,028 戸 浸水家屋（床下）　:5,658 戸
平成 5 年 8 月	前線	約 1,200　m^3/s	浸水家屋（床上）　:98 戸 浸水家屋（床下）　:778 戸
平成 7 年 7 月	梅雨前線	約 800　m^3/s	浸水家屋（床上）　:28 戸 浸水家屋（床下）　:347 戸
平成 21 年 7 月	梅雨前線	約 1,600　m^3/s	浸水家屋（床上）　:65 戸 浸水家屋（床下）　:335 戸
平成 24 年 7 月	梅雨前線	約 1,400　m^3/s	浸水家屋（床上）　:3 戸 浸水家屋（床下）　:14 戸
平成 30 年 7 月	梅雨前線	約 1,100　m^3/s	浸水家屋（床上）　:19 戸 浸水家屋（床下）　:113 戸
令和元年 8 月	前線	約 2,000　m^3/s	死者　:3 名 浸水家屋（床上）　:1,132 戸 浸水家屋（床下）　:1,804 戸

出典：六角川水系河川整備計画（令和 2 年度 7 月）［国土交通省 九州地方整備局 武雄河川事務所］

▼災害遺構位置図

住吉天神宮
架橋記念碑
徳須恵川
松浦川
六角川
祇園川
唐津市
佐賀市
伊万里市
多久市
小城市
武雄市
大町町
江北町
杵島郡
白石町
嬉野市
東彼杵郡
波佐見町